

第1回次期学習指導要領対応授業力向上研修 2017、5、15

# 特別支援学校におけるアクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの展開

浜松学院大学 岩見良憲

- 1 はじめに  
大学でアクティブ・ラーニングの授業を実践中  
講義型の授業から深い学びが成立する授業へ
- 2 教育改革の波にどう対応するか
  - 2-1 学習指導要領改訂で話題になってきたいくつかの言葉
  - 2-2 教育改革の波の中でささやかれる本音
  - 2-3 教育改革の波を考える順番、そもそも論で考える
  - 2-4 新学習指導要領・改定のポイント
- 3 アクティブ・ラーニングとは
- 4 おわりに

## 2-1 学習指導要領改訂で話題になってきたいくつかの言葉

- ・アクティブ・ラーニング(以下、ALと記すことがある)
- ・カリキュラム・マネジメント(以下、CMと記すことがある)
- ・育成すべき資質・能力
- ・評価の観点が4観点から、学力の3要素をふまえた3観点へ

Q1 例えばALやCMを、若手教員にわかりやすく説明できますか。

新しい用語の意味がわからないとき、時代から取り残されたと感じることがありますか。

Q2 あなたは学習指導要領改訂(教育改革)の波に適切に対応していると思いますか。この波に対応しながら、今後どう教育実践していくのか方向性が定まっていますか。

## 2-2 教育改革の波の中でささやかれる本音 1

### 教育改革に対しての素朴な疑問

- ・今、なぜアクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメントなのか。これらの提案は、通常教育の課題解決のためではないのか。
- ・ALは生単や作業学習、CMは個別の指導計画等で行っている。特別支援教育として、改めて取り上げる必要はあるのだろうか。
- ・CMも大事だが、それ以上に個に即した指導や教育課程の構築が急務。

### 現実的に考えてみても

- ・生単や作業学習などで、子どもたちは確実に力を付けている。ALやCMなどの概念を持ってこなくても、授業計画、実践、反省、新たな指導計画や教育課程の作成などは、PDCAサイクルで構築されている
- ・毎日時間が足りぬ。そこにALやCMの実践では多忙化に拍車をかける

## 2-2 教育改革の波の中でささやかれる本音 2

とはいえ、現状に課題を感じることはないだろうか

- ・生活単元学習や作業学習では、子ども主体の授業になっているだろうか。
- ・活動させることだけが目的になり、子どもが思考し、解決策をまとめ、発表する過程に十分時間をさいているだろうか。活動在りきになってないか。
- ・授業の活動が固定化し、授業がマンネリ化してはいないだろうか。
- ・現状の授業を改善したいと考えた時、具体的な解決方法は思い浮かぶだろうか。

Q 現在行っている授業の課題を3つあげてください。

## 2-3 教育改革の波を考える順番、そもそも論で考える

- 1 指導要領改訂作業があれば、教育改革の波は必ず生ずると認識する。
- 2 教育改革の内容を理解する。
- 3 このとき、社会の動きや背景にある思想や原理についても理解する。
- 4 現在行っている教育実践の課題を整理する。
- 5 教育改革を自分の教育実践にどう取り入れていくのか、慎重に吟味。
- 6 吟味の過程では、自分なりの納得を大事にする。
- 7 チームの教員集団で、ALやCMについて、そもそも論で議論する。
- 8 教育改革の波を自家薬籠中の物とするため、じっくり時間をかける。

(参考 央戸和成、2016)国立特別支援教育総合研究所、メールマガジン111号)

## 2-4 新学習指導要領・改定のポイント（平成29年3月告示）

### 2 資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

#### (2) 我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善

これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化。

これまでと全く異なる指導方法を導入するということではなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかりと引き継ぎつつ、授業を工夫改善する必要がある。

文部科学省(2017)幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

1 はじめに

2 教育改革の波にどう対応するか

### 3 アクティブ・ラーニングとは

3-1 デューイの経験学習の理論

3-2 コルブの経験学習モデル

3-3 アクティブ・ラーニングとは

3-4 いまなぜアクティブ・ラーニングか

3-5 アクティブ・ラーニングと授業実践例

3-6 先行実践、分藤他監(2017)、武富・松富編(2017)から学ぶ

3-7 障害の重い子のアクティブ・ラーニング

4 おわりに

## 3-1 デューイの経験学習の理論

学習とは、日常から切り離された場において、日常から切り離された記号、抽象的概念を注入することではない。

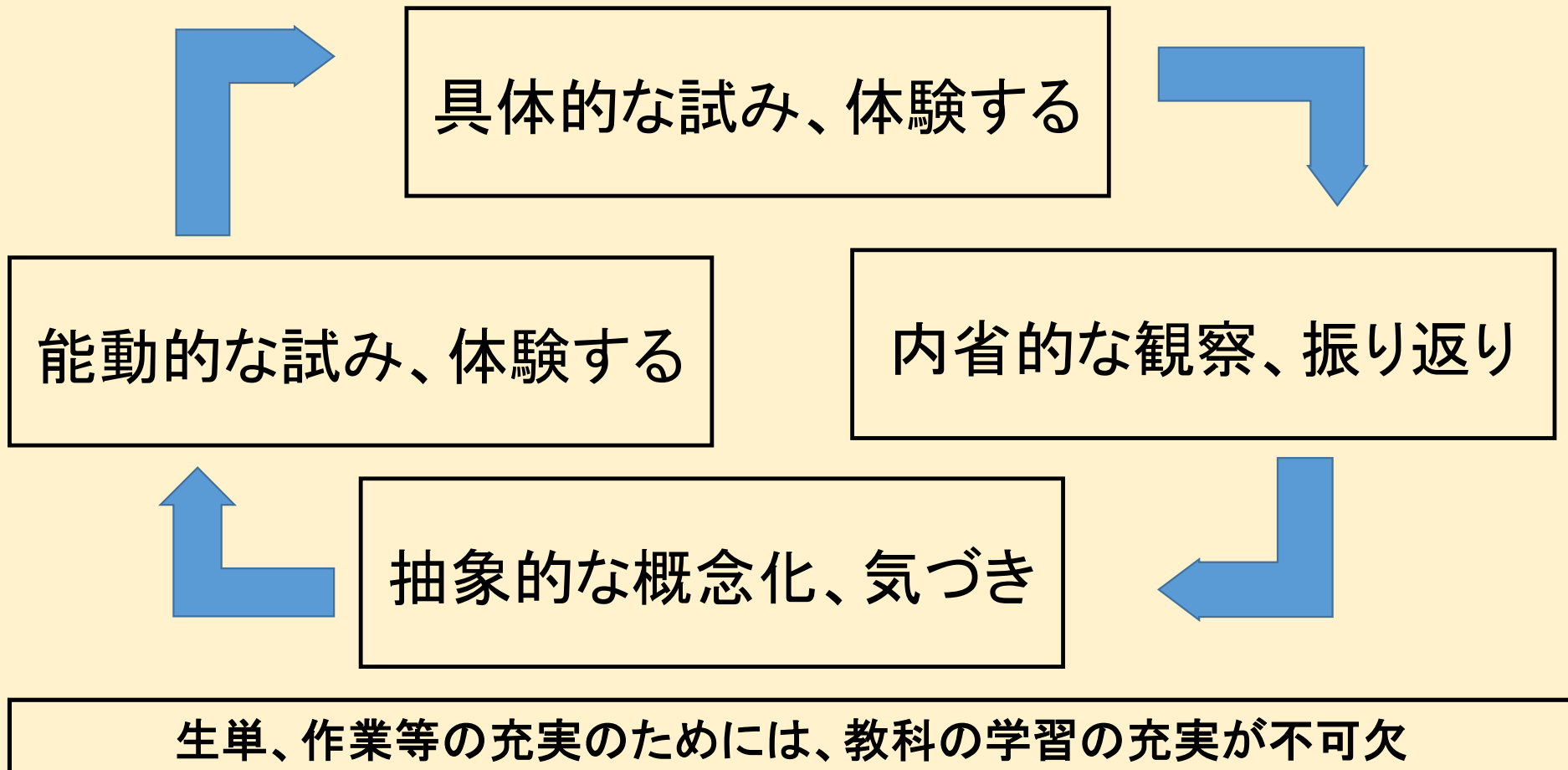
経験とは、「個体が環境に積極的に働きかけること」である。個人の能動的な働きかけによって経験は生まれ、さらに後続する経験を導く。やがて経験は相互に影響を与えあい「経験群」を構成し、この経験群に対する反省的思考を駆使することにより個体は認知発達をとげる。

中原淳(2013)経験学習の理論的系譜と研究動向、日本労働研究雑誌、No.639/October



## 3-2 コルブの経験学習モデル

小林昭文(2016)



### 3-3 アクティブ・ラーニングとは

○一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。

➡授業を「教えるから学ぶ」へ転換

○能動的な学習には、書く、話す、発表するなどの活動への関与と、そこに生ずる認知プロセスの外化を伴う

➡書く、話す中で、考えたこと、感じたこと、疑問に思ったことなどを発表し、話し合い、文章にする中で、知識を確かなものにする。

溝上慎一(2015)アクティブ・ラーニングと教授学修パラダイムの転換、東信堂

## 3-4 いまなぜアクティブ・ラーニングか

1 大学教育の分野から 1990年代

2 文科省 大学改革 中教審、高等教育部会(2012)

大学の状況を踏まえ、質的転換を図る

講義中心から、能動的・主体的な活動を取り入れた授業に

**高大連携、その改革**

3 次期学習指導要領の基本的なコンセプト「資質・能力の育成」を高める  
指導法の一つとして

これからの世の中を生きる社会人として必要な資質・能力を学校教育で  
育て、これまでの、「何を知り、何を覚えた」から、「どのように学ばせるか」  
の指導法の一つとして、アクティブ・ラーニングを提案。

文部大臣、中教審への諮問(2014)

参考 市川伸一(2015)なぜ、いま「アクティブラーニング」か、教職研究 11月

## 3-5 アクティブ・ラーニングの授業実践例 1

### ・活動例

#### ①探求的に学ぶ活動

課題の遂行・達成を目指した具体的で文脈のある活動を通じて、能動的に知識を探求的に構成する活動であること

#### ②協働的に学ぶ活動

他者とかかわり合い、協働的活動に参加・貢献する活動であること

#### ③自分の学びについて振り返りながら学ぶ

成因としての有能感の増大を伴うアイデンティが育成される活動であること

藤居千春(2016)アクティブ・ラーニング授業実践の原理、明治図書

## 3-5 アクティブ・ラーニングの授業実践例 2

### 授業展開の工夫例

- ①子どもたちに「わからせ、覚えさせる」のではなく、「わからなくさせ考えさせ、判断させる」
- ②学習課題を個人で個別に達成させるのではなく、チームで取り組ませて達成させる
- ③学習活動の成果として、子どもに知識、技能を習得させるだけでなく、自分の変容(成長)を自覚させる

藤居千春(2016)アクティブ・ラーニング授業実践の原理、明治図書

### 3-5 自ら気づき、行動を起こそうとする「内面の育ち」を支援する ー目的と見通しをもちやり遂げた実感に基づく「日常生活の指導」ー

- ・ 単元 「もちつき、ぺったんこ」 知的小1、3名、小2、3名

- ・ 児童にとってのAL

活動の流れに沿いながら、児童が意識して、手を洗う、エプロンなどの身支度をすることによって、生きて働く力の学びを深める。

- ・ 教師のとしてのAL

児童が自ら気づき行動を起こせる指導の仕掛けや、子どもが学びの主体となる働きかけを重点にした授業作り。教師の意識改革。

- ・ 指導計画

第1次 単元の活動に興味をもつ。(学びに向かう力)

第2次 もちつきの活動の進め方を理解する(知識)

第3次 自分で作って食べることを理解し、最後まで自分の力でやり遂げる(知識・技能、思考力・判断力・表現力)

第4次 他者(保護者)から認められる喜びを味わう(学びに向かう力、人間性)

武富博文・松見和樹(2017)知的障害に教育におけるアクティブ・ラーニング, 東洋館出版社

## 3-5 肢体不自由 地理的分野における子の実態に合わせた教科指導

- 指導の概要 中学部生に対する社会科の指導
  - 実態と指導内容  
右手に強いまひがあり、左手で文字を書く。経験が不足がち。
  - 課題と授業改善  
書写：書く活動に時間がかかる→補助具の工夫、手の動かし方を工夫  
地図帳：使うことが難しい→毎時間地図帳を使う。指で経線、緯線をなぞる。映像を活用。  
学習内容と実際の生活が離れている→社会的事象を想像できるよう画像
  - 結果  
補助具の使用により、腕の疲れや痛みが少なくなった。  
大きな文字で書かれた地名は、一人で見つけることができるようになった  
インターネットの画像を活用し、実際の姿について意識するようになった
- ◎教師間で「気付きノート」を活用。授業の様子や気づいた事を教師間で共有

## 3-6 先行実践、分藤他監(2017)、武富・松富編(2017)から学ぶ

- これまでの指導をALの観点から問い直し、指導を行った事例の紹介
- 改善を加えた観点、今後追及される観点
  - ①授業構成の工夫 ②指導方法の工夫
  - ③教材教具や活動の工夫。児童の興味、実態に即した教材教具や活動。
  - ④思考力、判断力、表現力等を深めるための体験的な活動
  - ⑤「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点から、単元や各授業の構成を考える
  - ⑥「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から、各授業の構成を考える
  - ⑦パフォーマンス評価、ルーブリック、ポートフォリオ評価などを活用したALの授業実践。
  - ⑧少人数指導における教科学習のALの追及
  - ⑨障害の重い子の主体的・対話的な深い学びの追及
  - ⑩大集団での取り組み。学校ぐるみのALで授業がどのように改善したか。



	習得	活用	態度
	理解する 基本的な知識・技能の習得	伝える 知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な表現力	創造する 主体的に学習に取り組もうとする姿勢
3	課題解決に必要な、基本的な知識を活動から習得し、自在に使いこなすことができる。	論理構成が明確であり、かつ自分なりに考えた独創性ある表現で、説明に工夫が見られる。	得られた結果に満足せず更なる考察ができてい
2	課題解決に必要な、基本的な知識を活動からある程度理解している。	論理的に筋の通った説明ができており、説明の表現も適切である。	質問やグループ内での説明により課題解決に向けた考察をしている。
1	課題解決に必要な、基本的な知識の理解が不足している。	説明が不足、あるいは教科書等の文章をそのまま引用した説明が多い。	勘やあいまいな判断に留まり、より深い考察をしない。

## 5がつ12にち(きんようび)



### 朝の園庭あそび

子ども達は、それぞれ自分の「楽しい！」を見つけてるのがとても上手です！



### 母の日のホール朝会



### 「母の日ってどんな日??」

今日は14日の母の日を前に、みんなでホールに集まり母の日のおはなしをしました。

『みんなが元気に大きく育つように』

いつも頑張ってくれているおかあさんに

ありがとうの気持ちを伝える日』

心のこもったプレゼントと子どもたちの気持ち、

子どもたちが大好きな、お母さんの笑顔で

受け取ってあげて下さい♪

### きゅうしょく、おいしい!

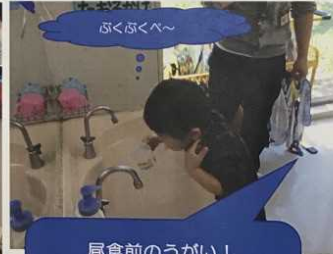


### はじめての給食!

みんなそれぞれのペースで、食べていました。おうちで食べるご飯とはちょっと違う味・・・完食したり、ちょっと苦手だったり。でもそれでいいんです! 美味しい給食をみんなと、楽しく食べましょうね!

### 安保

### ぶくぶくべ〜



### 昼食前のうがい!

手洗い・消毒を済ませたあとは、それぞれのクラスでうがいをしてから昼食を頂きます!!

### 内科検診

昨日お休みしたお友達は今日内科検診をしました。かなざわ先生は今日も優しく丁寧に診て下さいました! まだ内科検診を受けていないお友達は後日診ていただきます。



## 3-7 障害の重い子のAL

子どもの心の動きを現すことばを手がかりに

- ・ 楽しい、うれしい、好き、気持ちよい、満足、安心、おいしそう、納得
- ・ もっとやりたい、すっきり、やったー、がんばる、やる気、
- ・ いやだ、怒り、イライラ、疲れた、さわらないで、めんどくさい、いらない、わからない、どうしよう、迷い、嫌い

◎障害の重い子の指導では教師の読み取り、意味づけが重要

- ①子どもの行動と働きかけ、あるいは指導内容との関係を考える
- ②子どもの行動と目標との関係を考える
- ③チームで子どもの行動の意味を共有し、効果のある指導、修正すべき指導を明確にしておく

参考 飯野(2010)障害の重い子どもの授業作り

### 3-7 障害の重い子のAL

自立活動の内容と評価の3観点を押さえて目標、指導内容、評価を明確に

<p><u>評価と発達の観点</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>①知識及び技能</li><li>②思考力・判断力、表現力等</li><li>③学びに向かう力 人間性等</li></ul>	<p>飯野(2010)障害の重い子どもの授業作り3, ジアース社を岩見が修正</p>
<p>目標と設定、指導内容の明確化 重点</p> <p>↓</p> <p>本時の授業</p>	<p><u>自立活動の6区分26項</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>①健康の保持</li><li>②心理的な安定</li><li>③人間関係の形成</li><li>④環境の把握</li><li>⑤身体の動き</li><li>⑥コミュニケーション</li></ul>

## 3-7 障害の重い子のAL 障害の重い子どもの主体的行動の共有 —例えばエピソード記述の活用— 1

- 1 はっとした、とても気になった、子どもの姿に出会えて嬉しかった、嫌な思いをした、悩んだなど「私の心」が揺さぶられた場面を描く
- 2 その出来事のあらましが読み手に分かるように示す
- 3 次にその出来事背景を示す。中心人物の背景と、その出来事がどんな流れで起こったかの背景を書く
- 4 子どもの思いを受け止めて、教師はどう思い、どう指導したか
- 5 エピソード取り上げた理由(考察)を最後に付す。なぜ書いたのか読み手に何を伝えたかったのか。

参考 鯨岡 峻 エピソードを通して支援とは何かを考える

[www.suisen.or.jp/i\\_support/siryu\\_20080827.pdf](http://www.suisen.or.jp/i_support/siryu_20080827.pdf)

## 3-7 障害の重い子のAL 障害の重い子どもの主体的 「行動の共有」—例えばエピソード記述の活用— 2

体験を自分一人の体験としないで、他者に伝え、理解してもらい共有する。

→子どもを理解する目、力を高める

読み手は、書き手の感じたこと、思ったことなどを読み取り、新たな気づきを得る

→経験で培った経験知を使って問題を省察し、書き手も読み手も、気づきを生み出す

参考 鯨岡峻(2012)エピソード記述を読む. 東大出版

### 3-7 障害の重い子のAL 障害の重い子どもの主体的行動の共有 —例えばエピソード記述の活用— 北原(2016)富士特別支援学校

- 朝の会でカードを教師と一緒に予定ボードに貼る。次の課題に移る前に「〇〇が終わったね」と言葉掛けし、本生徒が順番にカードを取る。最後はカードが付いていない予定ボードを教師と一緒に触り、学習が全て終わったことを確認。
  - 考察: 学習の最後に予定ボードに触ると、初めの頃は「なんだろう?」という表情が見られた。次第に「もう終わり、つまらない」の表情をするようになった。  
→「つまらない」の表情は成長の一つ→「つまらない」を主体的な活動に発展させる。「もう一回〇〇しようか」とか、終わりの動作化などの→他の活動でも「もう1回」、「終わりの動作」を繰り返す
- 授業の終わりに省察→次回の授業で修正した指導を実施

## 3-7 障害の重い子の指導を振り返り

### 小2、訪問教育。重度重複障害

- 自発的な行動は、「あー」など声を出す。一人にいる時より、声掛けがあった方が声を出す→目標；呼名したら返事をする
- 手の平に刺激を伝えると握る→意図的な動きができるよう。→目標：意識しておもちゃを握ることができる
- 指導2年間結果：呼名されると声を出す。天井からつるされた物を握ることができた
- 考察：重度重複障害の教育は、人や物との2項関係、3項関係作りに収斂される。
- 指導：働きかけ→待つ、の繰り返し。主体的な動きを待つ。一定の働きかけに一定の反応が確立すると、働きかけが増す
- 祈りにも似た確信、繰り返しの指導が重要。



## 3-7 まとめ 子ども主体の授業改善

子ども主体の授業改善

授業のデザイン力を発揮した授業作り  
子どもの主体性を引き出す教材  
評価と関連した構造化された目標  
系統的な指導内容

実践的指導力による授業展開  
専門的な力量に基づく意図的な指導、  
主体的・対話的な深い学びを生み出す支援

根拠に  
基づく骨  
格のしっ  
かりした  
授業の  
基盤

参考 飯野(2010)教師の授業づくり自己診断・自己評価シート、(障害の重い子どもバージョン)、障害の重い子どもの授業作り3、ジース社、

## 特別支援教育のALやCMの研究や書籍

- 飯野順子(2010)障害の重い子どもの授業作り3、一子どもが活動する「子ども主体」の授業を目指してー, ジアース社
- 特別支援教育研究(2016)特集アクティブ・ラーニングを先取り, 4月. No714, 東洋館出版社
- 国立特別支援教育総合研究所(2016)知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方ーアクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・学習評価の一体化ー(中間報告)
- 分藤賢之他監(2017)肢体不自由教育実践. 授業力向上シリーズ4.「アクティブ・ラーニング」の視点を生かした授業作りを目指して, ジアース社
- 武富博文・松見和樹(2017)知的障害に教育におけるアクティブ・ラーニング, 東洋館出版社